

第63回 美術史学会全国大会プログラム

5月21日(金) (9時10分受付開始)

研究発表(午前) (9:40-12:30、会場:百周年記念会館1F正堂)

- 9:40-10:20 東京国立博物館所蔵「土蜘蛛草紙」の研究 本多康子(学習院大学)
- 10:20-11:00 詫磨栄賀の図様学習とその絵画化—交錯する伝統と創意— 藤元裕二(浅草寺)
- 休憩10分
- 11:10-11:50 鷗尾の原義について 金子典正(早稲田大学)
- 11:50-12:30 鳳凰の足—「対趾足」図像の起源と伝播— 中野晶子(一橋大学)

研究発表(午後) (13:40-17:10、会場:百周年記念会館1F正堂)

- 13:40-14:20 獅子窟寺蔵薬師如来坐像造立考 西木政統(慶應義塾大学)
- 14:20-15:00 ギリシアの陶器画における空間把握 田中咲子(南山大学)
- 休憩10分
- 15:10-15:50 《エレウシスのアンフォラ》の神話表現—葬礼制度に基づく再検討— 福本薫(筑波大学)
- 15:50-16:30 ハドリアヌスの円形浮彫り群の図像解釈について—犠牲式図像を手がかりに— 坂田道生(筑波大学)
- 16:30-17:10 北アフリカにおける古代末期の地誌表現 瀧本みわ(東京藝術大学)
- ハイドラの舗床モザイク《地中海の都市と島々》の創意をめぐって—

『美術史』論文賞表彰式 (17:25-17:45、会場:百周年記念会館1F正堂)

総会 (17:45-18:45、会場:百周年記念会館1F正堂)

5月22日(土) (9時受付開始)

研究発表(午前) (9:20-12:10、会場:百周年記念会館1F正堂)

- 9:20-10:00 ビザンティン画家カリエルギスの画業 橋村直樹(岡山大学)
- ヴェリアの救世主キリスト復活聖堂(1314/15年)の壁画装飾プログラム—
- 10:00-10:40 15世紀ブルターニュ時祷書における祈禱像の多元的考察 田辺めぐみ(帝塚山学院大学)

休憩10分

- 10:50-11:30 ロヒーール作《七秘蹟祭壇画》に見られる「反対の一致 Coincidentia oppositorum」
—マーテル・エクレスシアの図像変遷とその特質— 本橋瞳(立教大学)
- 11:30-12:10 15世紀末のフランドル絵画に見られる新たな画面空間構成法の発想源を求めて
—メムリンク作《キリストの受難》の場合— 平岡洋子(東海大学)

研究発表(午後) (13:20-14:40)

第一分科会 (13:20-14:40、会場:百周年記念会館1F正堂)

- 13:20-14:00 ピーテル・ブリューゲル(父)作《サウロの回心》に関する一考察
—作品解釈を中心に— 中田明日佳(京都大学)
- 14:00-14:40 バルデス・レアルの二大ヴァニタス画 豊田唯(早稲田大学)
- カリダード兄弟会の理念とイエズス会の思想—

第二分科会 (13:20-14:40、会場:西5号館地下・B1教室)

- 13:20-14:00 中国南朝の阿彌陀浄土図の景観と皇帝の苑 三宮千佳(早稲田大学)
- 14:00-14:40 大阪・久米田寺所蔵北斗曼荼羅図に関する一考察 宇代貴文(神戸大学)
- 制作背景を中心に—

シンポジウム「美術における宴」 (14:50-17:50、会場:百周年記念会館1F正堂)

司会:喜多崎親(一橋大学)

パネリスト

- 荒川正明(学習院大学):「東アジア工芸の場合」
- 島尾 新(多摩美術大学):「東アジア絵画の場合」
- 高橋裕子(学習院大学):「西洋絵画の場合」

懇親会 (18:00-20:00、会場:百周年記念会館3F小講堂)

5月23日(日) (9時受付開始)

研究発表(午前)

第一分科会 (9:20-12:10、会場:百周年記念会館1F正堂)

9:20-10:00 ピーテル・ヤンスゾーン・サーンレダムの教会堂内部画
—1648年作《ハーレムの聖バーフォ聖堂身廊と大オルガン》の独自性とその意義—
高野明子(慶應義塾大学)

10:00-10:40 モデルの美化の放棄
—J.-E. リオタールの肖像画と宮廷人のまなざしへの対応—
宮崎匠(東京大学)

休憩10分

10:50-11:30 グスタフ・クリムトによるウィーン大学講堂天井画「医学」について
—関連する人物素描にみられるマイブリッジの連続写真の受容を中心に—
前田朋美(名古屋大学)

11:30-12:10 「親密なるスラブ民族」
—水上パレード企画に見る総合芸術家としてのムハー—
小野尚子(大阪大学)

第二分科会 (9:20-12:10、会場:西5号館地下・B1教室)

9:20-10:00 近代日本における縄文土器の受容
—文様から全体造形への階梯—
鈴木希帆(武蔵野美術大学)

10:00-10:40 日本製陶技術の西漸
—1920年代初頭におけるリーチ・ポタリーでの松林靄之助の活動を中心に—
前崎信也(立命館大学)

休憩10分

10:50-11:30 誰が袖図屏風における「定型的」図様形式の展開
—小袖衣装の描写に関する考察—
奥田晶子(京都市立芸術大学)

11:30-12:10 初期の友禅染をめぐる一考察
—伝伊達綱村所用の友禅染産着を中心に—
高木香奈子(関西学院大学)

5月23日(日) (続き)

研究発表(午後)

第一分科会 (13:20-17:30、会場:百周年記念会館1F正堂)

13:20-14:00 ジャック・リブシッツ作《ハゲワシを絞めつけるプロメテウス》
—1937年のパリ万国博覧会における美術とイデオロギー—
磯谷有亮(大阪大学)

14:00-14:40 シュトゥットガルト美術アカデミーとパウハウス
青木加苗(京都市立芸術大学)

14:40-15:20 フォルクヴァング美術館における展示形式の変遷
—非西欧へのまなざしと併置的展示の実現—
安永麻里絵(東京大学)

休憩10分

15:30-16:10 帝政末期のロシア美術における日本美術の受容
福間加容(千葉大学)

16:10-16:50 フランシス・ベーコン作品に対する批評の転回とその文化的背景
—イギリス国内における抽象表現主義受容と関連して—
榊田倫広(早稲田大学)

16:50-17:30 デイヴィッド・ホックニーと《時》のパーспекティヴ
—マルセル・ブルースト『失われた時を求めて』との関わりから—
田中麻帆(早稲田大学)

第二分科会 (13:20-17:30、会場:西5号館地下・B1教室)

13:20-14:00 近世的「長恨歌図」の一様態
—婚礼調度としての《長恨歌図屏風》(個人蔵)—
村木桂子(同志社大学)

14:00-14:40 菱川師宣による徒然草図制作について
阿美古理恵(国際浮世絵学会)

14:40-15:20 桜町天皇譲位・桃園天皇受禪における渡辺始興らの屏風絵制作について
福田道宏(奈良県立万葉文化館)

休憩10分

15:30-16:10 円山応挙の写生一人形、見世物、春画との関係—
加藤弘子(東京藝術大学)

16:10-16:50 近世大坂画壇における大岡派・吉村派の再考
—光明寺資料調査報告を中心に—
高杉志緒(下関短期大学)

16:50-17:30 伊藤若冲筆「動植綵絵」研究
田島菜摘(学習院大学)